

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	介護老人保健施設(仮称) エスペラル春日井	階数	地下0階地上5階
建設地		構造	RC造
用途地域	指定なし、都市計画区域内(市街化調整区域)	平均居住人員	120人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年8月10日
敷地面積	6,978 m ²	作成者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘
建築面積	1,699 m ²	確認日	2023年8月10日
延床面積	5,611 m ²	確認者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

★ ★ ★ ★ ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	184 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	89%
③上記+②以外の	46 (kg-CO ₂ /年・m ²)	89%
④上記+	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>25.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	25.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	25.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
介護老人保健施設(仮称) エスペラル春日井

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
Q 建築物の環境品質									3.1	
Q1 室内環境									2.9	
1 音環境									2.1	
1.1 室内騒音レベル									0.1	
1.2 遮音									2.1	
1 開口部遮音性能									0.15	
2 界壁遮音性能									2.2	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									2.2	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									1.00	
1.3 吸音									1.0	
2 温熱環境									2.6	
2.1 室温制御									0.3	
1 室温									2.6	
2 外皮性能									2.6	
3 ゾーン別制御性									1.00	
2.2 湿度制御									0.5	
2.3 空調方式									3.0	
3 光・視環境									2.8	
3.1 昼光利用									0.2	
1 昼光率									2.7	
2 方位別開口									0.25	
3 昼光利用設備									3.3	
3.2 グレア対策									3.3	
1 昼光制御									1.00	
3.3 照度									4.2	
3.4 照明制御									4.2	
4 空気環境									3.8	
4.1 発生源対策									0.2	
1 化学汚染物質									3.9	
4.2 換気									0.5	
1 換気量									4.0	
2 自然換気性能									4.0	
3 取り入れ外気への配慮									1.00	
4.3 運用管理									0.3	
1 CO ₂ の監視									3.0	
2 喫煙の制御									5.0	
Q2 サービス性能									3.3	
1 機能性									3.6	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									3.5	
2 高度情報通信設備対応									4.0	
3 バリアフリー計画									4.0	
1.2 心理性・快適性									0.4	
1 広さ感・景観 (天井高)									4.0	
2 リフレッシュスペース									5.0	
3 内装計画									5.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									3.5	
2 維持管理用機能の確保									4.0	
2 耐用性・信頼性									2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									2.8	
2 免震・制震・制振性能									0.48	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.4	
1 躯体材料の耐用年数									3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									0.20	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									0.3	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									2.8	
6 主要設備機器の更新必要間隔									0.33	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									2.6	
2 給排水・衛生設備									0.19	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									3.0	

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	3.5	3.5	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	4.0	4.0	0.50	
1	階高のゆとり	階高 3.7m	-	4.0	0.60		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	共用部 0.21 専用部 0.17	3.0	4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			0.3	3.7	0.38				
1	空調配管の更新性	② 空調配管は天井スペース内に設置	-	4.0	0.17				
2	給排水管の更新性	給排水管はPS内に設置	3.0	4.0	0.17				
3	電気配線の更新性	天井裏に配線スペースを確保	3.0	5.0	0.11				
4	通信配線の更新性	天井裏に配線スペースを確保	3.0	5.0	0.11				
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				3.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30				3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー				-	0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.67	3.0	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用		1階会議室にトップライト採用	3.0	4.0	0.20				4.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.87	3.0	2.6	0.30				2.6
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価									
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水		節水型機器(擬音便器)を採用	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63				3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材		ソーラトン、押出法ポリスチレンフォーム保温材、再生クラッシュヤラン	3.0	5.0	0.21				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を1種類使用	3.0	4.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68				
1	消火剤			-					
2	発泡剤(断熱材等)	硬質ウレタンフォームA種1Hを使用		4.0	0.50				
3	冷媒		3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①		3.4	0.33				3.4
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自		4.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自		3.0	1.00				
2	振動	独自		-					
3	悪臭			-					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制			3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			1.0					
3	日照障害の抑制			3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない		4.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

介護老人保健施設(仮称) エスペラル春日井

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:25%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 介護老人保健施設(仮称) エスペラル春日井

計画上の配慮事項	
総合	建物の特性に合わせて、使いやすさ、維持管理を当初から想定し計画している。停電時の電源確保など、有事に備えた設備も確保している。
Q1 室内環境	使用建材については、70%以上の面積でF☆☆☆☆を採用している。
Q2 サービス性能	専有部は十分な広さと階高を確保し、快適的な空間とした。配管材料は、耐用年数の長いものを採用し、維持管理には配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させた、建物としている。
LR1 エネルギー	建築内の設備は、LED照明など高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	節水機器を採用し、リサイクル材を積極的に使用するなど資源保護に努めている。
LR3 敷地外環境	建設に伴って発生するCO2の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮している。
その他	特になし。